

学 校 だ よ り

平成27年8月27日



9月号

NO. 318

横浜市立茅ヶ崎小学校
校長 岩本 悦子

「5 つ の 感 情」

例年になく酷暑が続きましたが、少しずつ暑さも和らぎ朝の風や虫の音に秋の気配を感じます。八百屋の店先には、ナシやぶどうなど様々な果物が並んでいます。子どもたちは夏休みの宿題や作品をもって登校してきました。

さて、私は夏休み中に、「インサイド・ヘッド」というアニメーション映画を大変興味深く、楽しく鑑賞しました。この映画は11歳のライリーという女の子が、主人公です。ライリーの頭の中では、「ヨロコビ」「イカリ」「ビビリ」「ムカムカ」「カナシミ」という5人のほほ笑ましいキャラクターたちが、ライリーの幸せのために、司令部で働いています。ある日、転校したライリーは悲しい気持ちでいっぱいになります。……

皆さんは、日常生活では「ヨロコビ」が多く、「イカリ」「ビビリ」「ムカムカ」は少なく、「カナシミ」はない方がよいと思いませんか？私はこの映画を通して改めて、人が人と関わりをもちながら生活し、心豊かに成長していくためには怒ったり、躊躇したり、ムカムカと気分が悪くなったり、そして、悲しんだりすることは大切な経験であると感じました。例えば、「カナシミ」を表現できると、悲しんでいることが周りの人に伝わり、一緒に考えてくれたり手助けをしてくれたりしたときに、前に進むことができるかもしれません。また、涙をたくさん流し、困難な辛い状況を自分自身が受け入れることによって、自ら解決方法を考え出せるかもしれません。

この5つの感情を冷静にコントロールしたいと思いますが、なかなか難しいものです。個性や性格により、この5つの感情のバランスは変化していきます。

乳幼児期の子どもは「好き・嫌い」「YES・NO」がはっきりしていて、5つの感情が明確です。小学校に入学して児童期になると次第に5つの感情は少しずつ複雑になり、5年生の頃から思春期に入り始めると感情はさらに複雑になり、本人にも難解となってきます。

秋は運動会を始め音楽のつどいや学年行事が行われます。これらの行事を通して規範意識や相手の思いを知り、違いを認め合ったり共通点を発見し合ったりすることによって、相手を尊重しようとする態度を育みたいと考えます。そのためには、この映画に出てくる5つの「ヨロコビ」「イカリ」「ビビリ」「ムカムカ」「カナシミ」の感情がどのようなバランスを保っていくかが鍵となります。子どもたちが戸惑っているときに身近にいる大人が、大人の論理を伝えることよりも、その子どもは今どの感情が強いのか、他の感情のバランスはどうなっているのかを考えながら共感的に接していくことが大切だと思いました。